

(IEA プレスリリース)

(注) 代表部仮訳のため、正確には IEA のホームページを参照)

世界の排出量と経済成長の分離が確定した。IEA のデータによれば、エネルギー関連 CO2 排出量は、再生可能エネルギーの増大により、2年連続して失速した。

パリ 3月16日

IEA が本日公表した 2015 年の暫定データの分析によれば、世界のエネルギー関連 CO2 排出量～人為的温室効果ガスの最大排出源～が 2年連続して前年と同程度にとどまった。

「新しい数字は昨年と驚くと同時に歓迎すべきニュースを確実なものにした。我々は今、2年連続した経済成長と温室効果ガスの分離を目の当たりにしている。」フアティピロル IEA 事務局長が述べた。「画期的なパリでの COP21 からほんの数ヶ月だが、この事実は気候変動に対する世界的な取り組みのもう一つの後押しである。」

2015 年の CO2 排出量は、2013 年以来ほとんど同レベルの 321 億トンにとどまった。IEA の暫定データによれば、再生可能エネルギーによる発電が決定的な役割を果たし、2015 年の新しい発電の約 90%、特に、風力発電だけで半分以上の新発電量を占めた。同時に、世界経済は、3%以上の成長を続けており、経済成長と排出量の伸びのリンクが弱まっていることのさらなる証拠を示している。

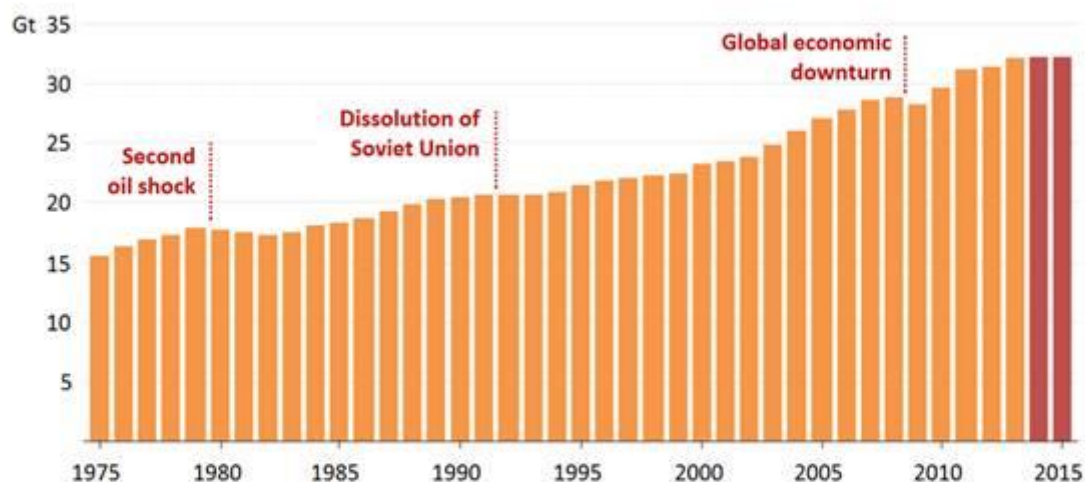
IEA が CO2 排出量のデータを明らかにし続けてきた 40 年間以上の間、たったの 4 回しか排出量が前年と比べて同程度か減少した期間はない。そのうちの 3 回は、1980 年代の前半、1992 年、2009 年であったが、それらは世界経済の低迷に関連していた。しかしながら、近年の排出量の低迷は、経済の拡大の最中に起こっている。IMF によれば、世界の GDP は、2014 年に 3.4%、2015 年に 3.1%伸びている。

2つの最大を排出国である中国と米国においては、2015 年にエネルギー関連の CO2 排出量の減少を記録した。中国では、石炭利用が 2年連続して減少したことにより、排出量が 1.5%減少した。非エネルギー集約型産業への産業再編と発電の脱炭素に向けた政府の努力により石炭利用が減少した。2015 年に、石炭は中国の電力源の 70%未満になり、4 年前(2011 年)から 10%ポイント減少である。同期間に、低炭素源は 19%から 28%に飛躍し、水力発電と風力発電が増加のほとんどを占めた。米国においては、発電部門における石炭から天然ガスへの大幅な転換により、排出量が 2%減少した。

2大主要排出国における減少は、他のアジアの新興国、中東、そして欧州の緩やかな増加により相殺された。

より詳細なデータと分析は、6月末に公表予定である、エネルギーと大気の質に関する World Energy Outlook 特別レポートに含まれる予定である。同レポートは、CO₂ 排出量のみならず、現在、年間あたり 700 万人もの早死にをもたらしている決定的に重要な政策対象である大気汚染に対するエネルギー部門の影響に関して、初めての掘り下げた分析を提供する予定である。同レポートは、排出量の見通し、健康に対する影響を示すとともに、政策担当者にエネルギー関連の大気汚染を短期そして長期にわたり低減する戦略を示す予定である。

Global energy-related CO₂ emissions



IEA analysis for 2015 shows renewables surged, led by wind, and improvements in energy efficiency were key to keeping emissions flat for a second year in a row